

クラウド等を活用した地域ICT投資の促進に関する検討会(第4回)

地域ICT企業として(富山県における取組み)

2015.4.24

株式会社インテック
コンサルティング事業部
事業部長 黛 文彦



会社の概要

- インテックは1964年、お客さまが共同でコンピュータを利用する計算センターとして富山の地で創業。以来、「コンピュータ・ユーティリティ」社会の実現を目標に、地域から全国に、そして現在はグローバルに事業を拡大。

社名	株式会社インテック
設立	1964年1月11日
資本金	208億30百万円
従業員	3,667名（2015年4月1日現在）
本社	富山県富山市 東京都江東区（東京本社）
事業所	<p>国内：</p> <p>札幌、仙台、山形、新潟、東京、横浜、長野、名古屋、京都、大阪、神戸、岡山、広島、山口、高松、松山、福岡、大分、魚津、富山、高岡、砺波、金沢、福井</p> <p>海外：</p> <p>中国：武漢、上海、大連 タイ：バンコク ベトナム：ホーチミン</p>
事業概要	技術研究、コンサルティング、ソフトウェア開発、システム・インテグレーション、ネットワークサービス、アウトソーシングサービス



地域ICT企業として

■ インテックは創業の地富山県において、50年以上、地域ICT企業として様々な取り組みを行っている。



研修センター

石川県 小矢野町 津軽市 岐阜県 長野県

(C)INTECH P. CORP.

産学連携（研究所）



放送・CATV会社への出資



大学寄附講座



地元企業支援



雇用確保

VDCネットワーク (Layer2 VPLS High-Speed Backbone)

北陸: 万葉DC

関東地区: 横浜DC 東京DC

関西地区: 大阪DC 大阪第2DC



経営塾



キッズホーム



スポーツ振興



富山の薬売り

懸場帳（データベース）

先用後利



人材の育成

産官学連携（地域だからこそ）

ICT活用による雇用確保

地元クラウドセンター

富山県立大学(公開寄附講座)

- 公開寄附講座の前半は、ITが企業・産業を通じてどのように社会に溶け込んできたか、技術革新がもたらしたインパクト、産業化の過程における経営者の視点、IT産業の発展を支えた市場等について、技術・経営・学術の観点から考察。後半では、ロボットやM2M(Machine to Machine)、スマートカーなどの最新技術や話題を取りあげるとともに、ITの未来について考察。学生だけでなく、一般にも開放し、毎回約100名の受講者が参加。

企業経営概論『IT産業の歴史と未来』（抜粋）

3	計算機からコンピュータへ(技術)	株式会社インテック 先端技術研究所 博士(工学)	新森昭宏
4	計算機からコンピュータへ(産業・経営)	株式会社富士通研究所 エキスパート 工学博士	安部文隆
5	通信とコンピュータの融合(技術)	株式会社インテック 執行役員先端技術研究所長	河崎哲男
6	通信とコンピュータの融合 ～通信による流通インフラの形成～	株式会社プラネット 代表取締役会長	玉生弘昌
7	パーソナル化の進展 ～電話交換技術の変遷からスマートフォンの誕生まで～	日本電気株式会社 エグゼクティブエキスパート	今井恵一
8	グローバルIT産業の潮流 ～ネットワーク化により加速する情報と経済のグローバル化～	エクイニクスジャパン 代表取締役	古田敬
9	インターネットの出現 ～メール/ウェブの登場から、クラウドコンピューティングまで～	株式会社インテック 先端技術研究所特別研究員 博士(情報理工学)	中川郁夫
10	インターネットの出現(産業・経営) ～Internet by Design～	東京大学大学院 情報理工学系研究科教授 工学博士	江崎浩
11	ITの未来(ロボット) ～ロボットが拓くIT技術～	株式会社インタラクティブラボラトリー顧問	大槻 正
12	ITの未来(M2M)	東京大学 先端科学技術研究センター教授 工学博士	森川博之
13	ITの未来(プラットフォーム) ～つながりの経営戦略～	慶應義塾大学 総合政策学部長 経営学博士	國領二郎
14	ITの未来(自動車) ～スマートカーと自動運転とオンラインゲーム～	インテル株式会社 ダイレクター	野辺継男

※発表者の所属組織名は発表当時のものとなっております。

富山市コンパクトシティとICT

- 富山市コンパクトシティは、市長・自治体による住民・企業等への丁寧な説明と地道な推進活動が行われている。施策の検討・検証および一部の施策を支援するため、過去から現在まで投資されたICT資産が利活用されている。



富山市のまちづくりの基本方針 ~コンパクトなまちづくり~

鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に住居、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現

<概念図>
富山市が目指すお団子と串の都市構造

- 串: 一定水準以上のサービスレベルの公共交通
- お団子: 串で結ばれた徒歩圏

<実現するための3本柱>

- ①公共交通の活性化
- ②公共交通沿線地区への居住促進
- ③中心市街地の活性化

COMPACT CITY TOYAMA -12-

- 乗数効果の高い産業への投資
地域特性を考慮 (富山 = 製菓業)
- “活性化”のパラメータと測定
雇用、民間投資額、地価の変動率、人口の社会減少率
- 施策の検討・検証に活用するICT
例: 人の移動データ→病院の配置
- 施策を支援するICT
例: 街ガイドプラットフォーム
例: シニアバイタルヘルスケア
例: 分散EMS (予定)

コンパクトなまちづくりの効果 ~人口の維持力/地価調査(H26.7.1)結果~

- 富山市の総人口は、日本及び富山県全体と同様に減少傾向にある。
- 富山市の人口減少率は、全国及び富山県全体と比較すると小さい。
- 富山市は、高齢化に伴う自然減（出生－死亡）により、人口が減少しているが、社会増（転入－転出）である。
- 県全体の地価平均は平成5年以降（22年間連続）下落したが、富山市は+0.2%（前年比）に転じ、市内商業地は平均+0.8%上昇した。特に市内中心部においては、複数拠点で+3.0%を超える上昇が確認された。

■ 人口増減などの比較(H24年4月1日～H25年3月31日までの1年間)

	人口(人)	増減数(人)	増減率(%)
全国	126,393,679	▲266,004	▲0.21
富山県	1,081,665	▲5,879	▲0.54
富山市	415,407	▲816	▲0.20
(東京都)	12,757,445	58,174	0.46

■ 富山市の人口動態(H24年4月1日～H25年3月31日までの1年間)

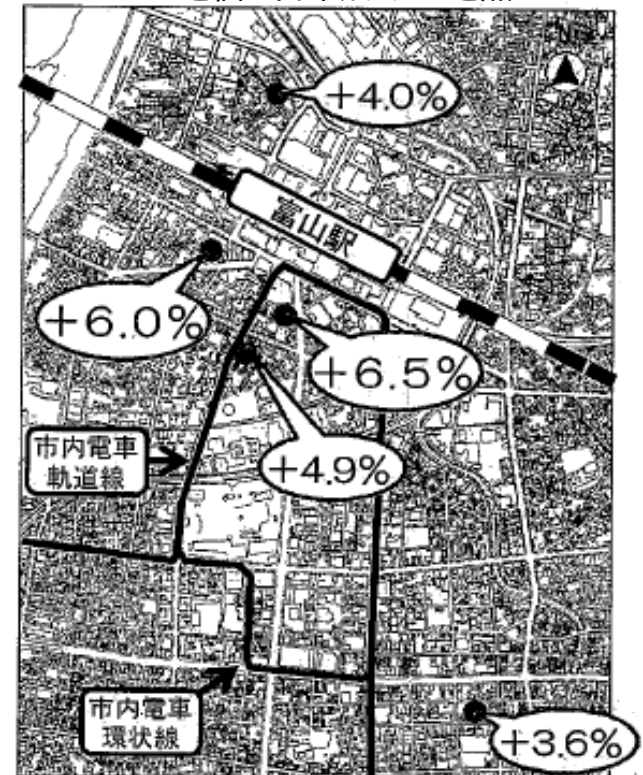
出生(人)	死亡(人)	転入等(人)	転出等(人)	合計(人)
3,297	4,413	10,073	9,773	▲816

※外国人含まず

1,116人の自然減 **300人の社会増(転入超過)**

※出展：総務省 住民基本台帳にも続く人口、人口動態及び世帯数(H25.8.28発表)、富山市資料

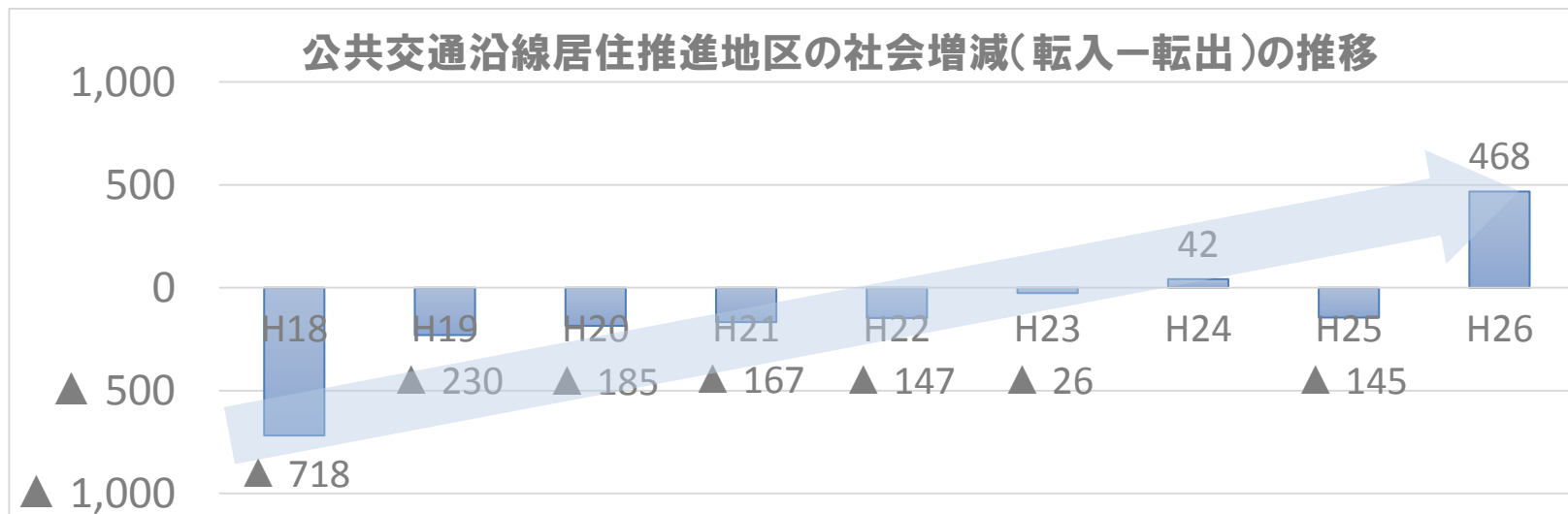
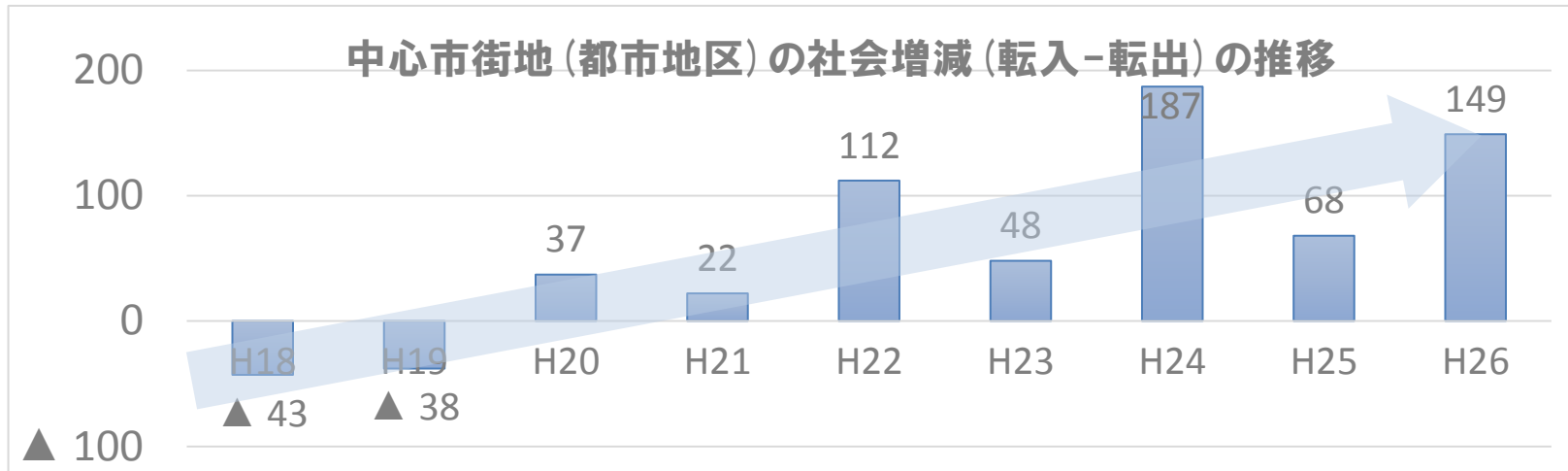
■ 地価上昇率が大きい地点



※出展：富山県地価調査結果 平成26年度版より
地価調査（県調査、基準日7月1日）、地点調査数（市内88か所）

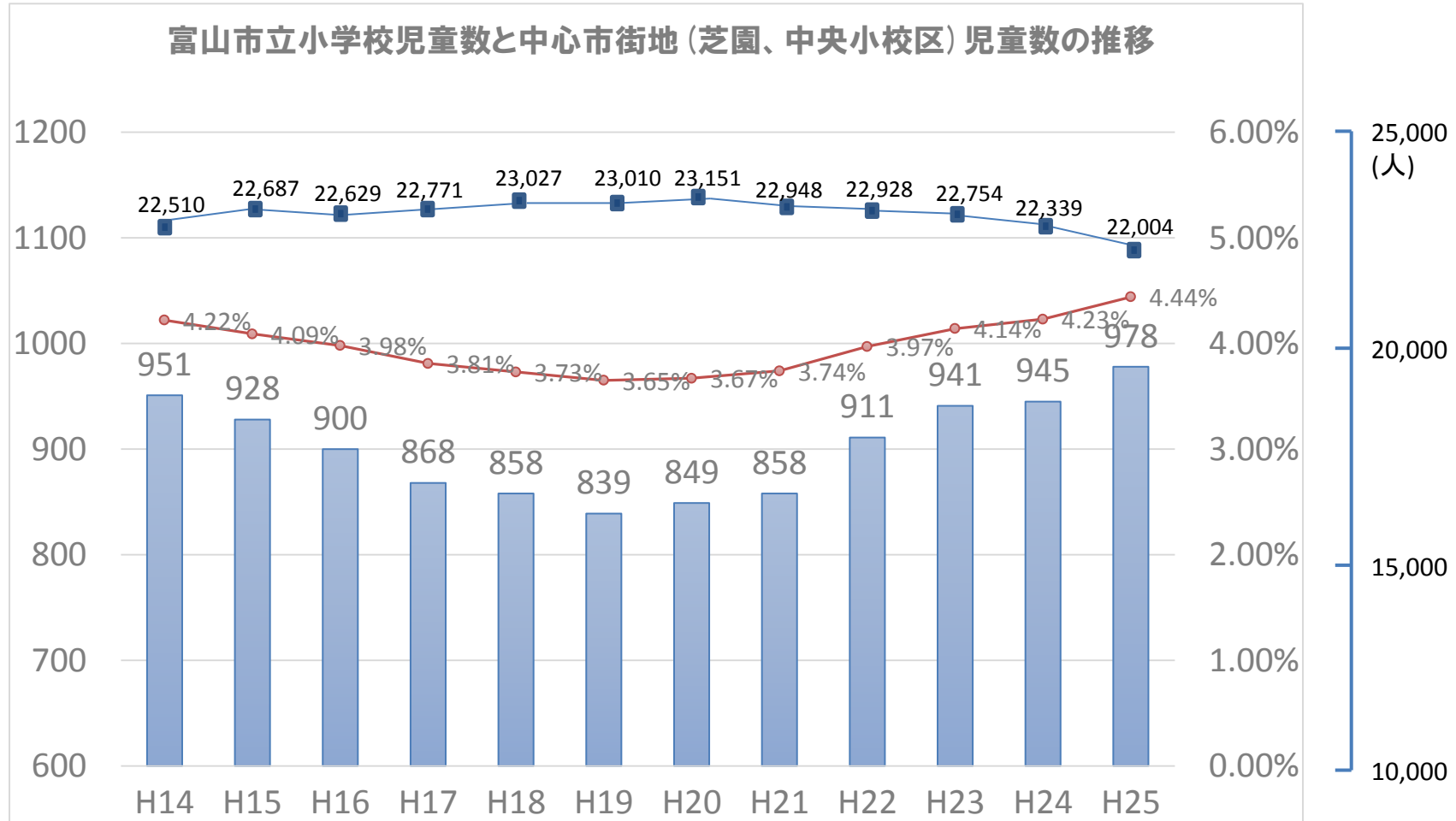
コンパクトなまちづくりの効果 ~転入人口の増加~

- 中心市街地では平成20年より、転入超過を維持しており、平成26年は、前年と比較し、超過数が増加している。
- 公共交通沿線居住推進地区では、転出超過が減少傾向にあり、平成24年、平成26年は転入超過となった。



コンパクトなまちづくりの効果 ～中心市街地の小学校児童数の増加～

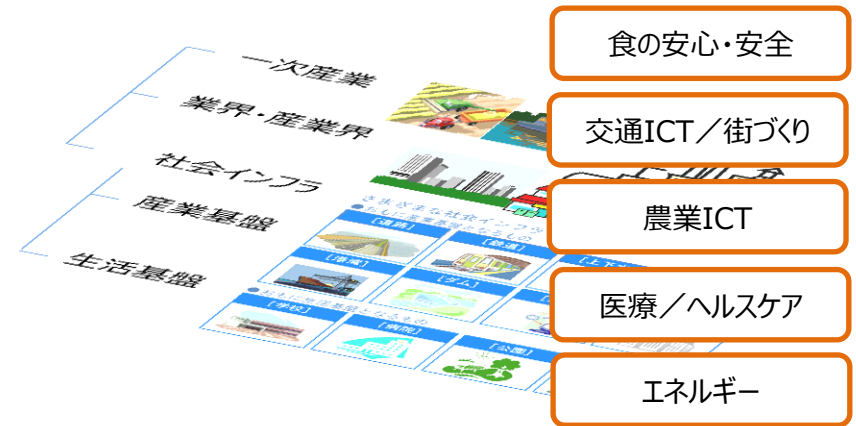
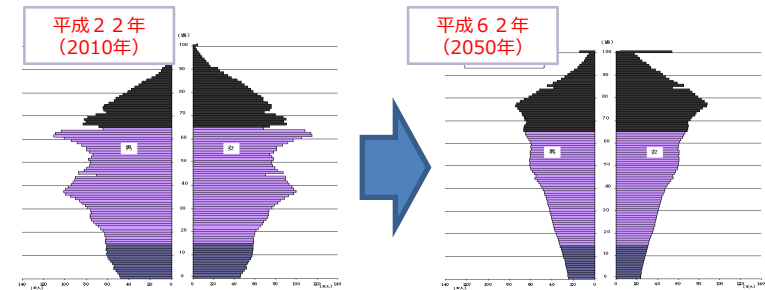
- 中心市街地の小学校児童数が139人（16.6%）増加（H19-H25）
- 富山市全体に占める中心市街地の小学校児童の割合が0.8ポイント増加（H19-H25）



■ : 中心市街地児童数 ● : 中心市街地児童数の割合 ■ : 市立全小学校児童数 ※出展：学校基本調査

地域ICTビジネスの機会

- 創業から現在まで、地域の基盤企業を獲得しその経験とノウハウを地域モデルとして横展開し規模拡大を目指した。
- 今後は、各地域に密着して、個々の課題をICTで解決するとともに、複数の業界VANの企画・構築・運営の経験とノウハウを活かした、地域間連携による産業クラウド（産業プラットフォーム化）への展開を目指している。



地域ICTビジネスの市場

■ まず、地域の基盤企業獲得
■ 地域モデルの横展開

➡ 規模

■ 地域密着型サービス
■ 地域間連携

➡ 産業クラウド

まとめ

■ 地域ICT企業が地域活性化に果たす役割

- ① 地域のICT経済の振興
- ② 人材育成（弊社グループ社員、地域経済、学生 等）

■ 地域活性化に資するICT投資

- ① 地域の強みをより伸ばすためのICT投資
- ② 中長期的な関わりを継続する



INTEC

IT Holdings Group

| Go Beyond